

平成27年10月 真鶴町教育委員会定例会要旨 会議録

期 日： 平成27年10月26日（月） 午後2時より

場 所： 真鶴町民センター 第2会議室

出席者： 津田博委員長、清水紘子委員長職務代理者、脇山亜子委員
玉邑恵子委員、牧岡努教育長
岩倉みどり教育課長、後藤由多加教育課副課長、大竹建治生涯学習係長
書記：小野真人主査、片山武丸主事補

欠席者： なし

傍聴者： なし

議事

1 開会

教育委員長より、開会あいさつ

2 教育長の報告

(1) 学校教育に係る部分に関すること

- ・園・学校の様子に関すること
- ・児童生徒指導に関すること
- ・学校の安全に関すること
- ・その他

(2) 社会教育に係る部分について

- ・スポーツ・文化事業に関すること
- ・文化施設に関すること
- ・その他

3 協議事項

(1) 今後の学力向上策について

教 育 長 資料1の1枚目を私から、その後ろのホチキス留めは副課長から説明させていただきます。1枚目をご覧ください。学力向上の真鶴方式ということで、こ

れを基本に考えていきたいと思います。その図にありますように、日々の教育活動に一つ一つしっかりと取り組むということが大切です。日々の授業の積み上げ、日々の教育活動の積み上げという土台があり、その上で課題に特化した取り組みを行います。いくら素晴らしい取り組みを子ども達にしても、日々の積み重ねである土台が無ければ、子ども達の姿には結びつかないと思います。土台を作った上で課題に特化した取り組みがあるからこそ、向上策の効果が上がると考えています。これを支えるものとして、家庭学習があると考えています。その他には、公営塾等があります。他の自治体で、寺子屋などの名前で実際に取り組まれているので、今後検討材料にしたいと思います。例えば家庭学習をいくら一所懸命にやっても、これはあくまで支えの一つであると私は考えています。公営塾をやってもあくまでそれは支えであり、あくまで基本の取り組みとしては、先に述べた二つを重視するというのが真鶴方式の特徴です。詳しく説明します。

※1です。まず日々の授業の積み上げということで、この三つの段階ができるようにと校長会を通し、学校に呼びかけています。一つは落ち着きのある授業です。これはいつであっても、誰が教えていても落ち着きのある授業を目指してほしいと伝えています。二つ目は学び合う授業です。共に学び共に育つという意味で、授業の一番大切な部分であると考えています。最後に確かな学びのある授業という事で、学習活動を通して何を学んだのか、何の力を付けたのかということを大切にしています。これは小学校だけでなく、中学校や幼稚園にも基本にしてもらい、真鶴の子どもなら授業は静かに受けるのが子ども達のスタンダードになるようにと、数年前から話をしています。これが一つ、日々の土台となる部分だと考えています。

※2は、日々の教育活動の積み上げです。学力向上となると新たなことをするイメージがあるかもしれませんが、私はそれだけではなくて、日々の教育活動をきちんと行い、当たり前のことをしっかり行うことを積み上げるのが大切だと思います。今までに述べた二つのことをきちんとやることが、学校の授業の中核であり、学力向上の土台になると考えています。

以上をふまえ※3として、課題に特化した取り組みという事で三つの視点を考えています。まずはそれが日常の教育活動の中で継続して実践できる取り組みであることです。非常に素晴らしい取り組みでも、日常的にできなければ意味もないですし、決められたことを継続して日常の中でできる取り組みであることが重要だと思います。二つ目は子どもの育ちの連続性を反映した取り組みであることです。特に当町は1小1中ですので、連続していることが大切です。三つ目は今までの反省を生かした取り組みかです。以前委員の方から今までの取り組みを振り返っているのかというご指摘を頂き、このたび反映しました。副課長の方からこの後説明を致しますが、この三点にも注意しながらご意見等頂ければと思います。

副 課 長

それでは私から今年度4月に実施いたしました全国学力学習状況調査、神奈川県学習状況調査の結果分析に基づく、今後の学力向上についての取り組みについてご説明いたします。まず平成27年9月9日、10月8日の2回に分けて、小中3名ずつの計6名の先生方にお集まりいただき、真鶴学習調査検証委員会を開催いたしました。その際に、各学校で事前に結果を分析していただき、教育委員会の分析と照らし合わせ総合し、現在の学力の状況、学習環境の実態について情報共有、協議を行いました。今年度特に焦点化しておりますことが、学校全体を規模とした実のある取り組みです。非常に形の良いものを作れても、情報を流して終わりになってしまうのではなく、実際の取り組んでいけるものにしました。これまでの物に比べると、表記内容が絞られた部分があると思います。それらを具体化する方策としましていくつかご報告いたします。

一つ目です。昨年度から重点的取り組みというものを各学校へ投げかけていたのですが、今年度は学校の主体性を活かすという観点から、まず各学校で重点的取り組みについて練りあいをして頂きました。それらを検討委員会の小中学校の先生で話し合っていたいただき、連続性を加味したものを作成しました。

2つ目は今回提示した重点的取り組みをどのように実践して、どんな変化があったのか、効果と課題の検証を行うものです。翌28年2月23日に半年の実践報告について第3回学力調査検証委員会を開催し、半年間の報告を行います。

それでは学力調査委員会で作成した資料の説明を致します。まず、今年度の学力調査の分析についてです。この報告にあたりまして、予め皆様にご承知いただきたい部分があります。本調査の分析結果で、課題が見られる、また十分な学力があると判断いたしましたのは、全国や県での結果との比較において判断を致しました。ある設問において、真鶴町の児童の10人中9人が正解すれば、非常によくできていると捉えられるかと思うのですが、全国平均の正答率が100%ですと、10%の差が生まれます。その優位差から課題があると判断しております。また、逆もしかりで、10名中3名しか正解せずとも、全国正答率が20%でしたら十分な学力があると判断しております。以上から、分析の一つ一つを見るのではなく、今まで経年で捉えられている課題や、学年をまたぎ共通している課題、子ども達の意識調査などについて、取り上げてご説明したいと考えております。

1つ目の資料の1ページ目をご覧ください。こちらにつきましては、小中学校の教職員向けの資料になっています。こちらの小学校の状況、概要という部分をご覧ください。まず国語についてです。小学3年生は漢字を書くことに課題が見られます。また、文章を読んで思ったこと、考えて事を書くことに課題が見られます。5年生は漢字の読み書きに課題が見られます。6年生は漢字を書くこと、目的や意図において整理しながら文章を書くに課題が見られます。中学校の国語です。中学2年生は省略します。3年生は漢字の書き取りに課題

が見られます。国語分野では、経年課題としても学年をまたぐ課題としても、漢字の書き取り、文章を書くという部分が挙げられます。

次に算数です。小学3年生では掛け算の式の意味を正しく理解すること、図形の仲間分け、中でも特に作図に課題が見られます。小学5年生です。小数の計算や、整数の割り算、あまりのある計算に課題が見られます。6年生では小数の入った計算、図と式を結び付ける計算に課題が見られます。中学生2年生の数学です。作図に課題が見られます。中学3年生は省略します。この分野で見られる特徴としましては、小中学校共に作図に課題が見られました。また、小学校では式の意味を理解すること、小数等が含まれた計算の問題に課題が見られました。

続きまして理科分野です。小学3年生は理科を行いませんでした。小学5年生は直列つなぎの作図に課題が見られました。6年生では顕微鏡やメスシリンダーなどの実験器具についての理解や取り扱いに課題が見られます。中学2年生では、作図やグラフの読み取りに課題が見られます。中学3年生は省略します。理科分野でも作図に課題があり、小学6年生では、実験の理解や器具の取り扱いに課題が見られます。こちらは中学校では課題にはなりません。この差は後に教科に対する意識調査の部分でご説明します。

意識調査での目立った傾向です。まず小学校です。小学3年生では、特に目立った課題は見つかりませんでした。学習面、生活面での子ども達の意識は非常に高く、勉強意欲も非常に高いと言えます。調査結果にその意欲が結びついていない部分もありますが、子ども達の想いとしては十分に意欲を持ち、楽しく学校で過ごしているという状況です。小学5年生につきましても、比較的同じ傾向が見られます。しかし、こちらにあがってはいませんが、いくつか課題となる部分がありました。教科に対する意識調査の部分と重なりますので、こちらでご説明します。小学校6年生です。普段テレビゲーム、コンピューター式のゲーム、携帯式ゲームをしている時間や、携帯電話、スマートフォンをしている時間が多いという結果が出ました。こちらは中学校3年生にもこの傾向がみられます。この設問につきましては、神奈川県調査の中に入っていません。それらから、小学校中学年の段階からこの傾向があるのではないかと捉えられます。また、自分に良いところがあると思っている児童が少なく、自己肯定感の低い児童が多いという事が分かりました。しかし、中学校では学校に行くことが楽しいと感じている児童が多く、友達同士の話し合いによって、学級の決まり等を決めていると感じているとの回答も多くありました。話し合い学び合いの学習が行われていると実感している、話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりすることができている等、自己肯定感が高いという結果になりました。ただし、一日におけるスマートフォン、ゲーム機の使用時間が2時間を超えている生徒が多く出ています。また、話し合いは非常に充実して行っていますが、生徒の意識としては、友達の前で自分の意見や考えを発表する

ことが得意だと感じている生徒は少ない傾向にあります。私たちが学校訪問等で生徒の姿を見る時、客観的によくできていると思うのですが、生徒自身からすると得意とまでは感じていないというズレがあった事が分かりました。

各教科についての意識調査です。特徴的な部分では、小学校5・6年生共に読書が好きだと感じている児童が少ないという傾向があります。読者をする時間を設けていますが、好きだということまでは意識が高まっていない事が分かりました。しかし中学3年生では読書が好きな生徒が多い傾向があります。このあたりで、中学校の取り組みを小学校と共有する必要があるように感じています。ただ、小学校の3・5・6年生では自分たちが発表する事、相手に伝わりやすいように工夫をする事に対しては非常に意識が高いという結果が出ています。これは学び合い、伝えあいということの研究として行ってきた成果が表れているのではないかと思います。それを土台としまして、中学3年生でもそういった学び合い、話し合いが充実しているのではと思います。先ほど理科の分野で、小学6年生には実験の理解や器具の理解、取り扱い方に課題があり、中学生には見られなかったと申し上げました。そこに繋がる部分で、自然の中で遊んだことや、自然観察をした生徒が多くいる傾向があります。理科の授業で、観察や実験に取り組む機会が多いという事が考えられます。中学校に確認しますと、実験の数はどこよりも多いと自信を持って言えるだろうとお答えいただきました。体験の重視という部分が中学校の結果において明らかになったのかなと思います。これは中学校の理科だけでなく他教科においても重視されていると捉えております。このような実態から小学校の授業におきましては、自分の思いや意見を伝える機会は充実しているのですが、そこから深め合うという作業が不十分なのではないかという意見が検討委員会であがりました。そのために授業改善としましては、中学校で成果としてありますように、体験と学びを繋げていく授業を整えていくことが重要なのではないかという事になりました。また、せっかく自分の思いや考えを伝えているのに、それが友達との深め合いに繋がらないという事で、「聞く」という事を大切にしたい学び合いの授業が必要ではないかという事になりました。最後に書くという事に課題がありました。自分の変容、何を学びどう変わったのかをまとめ、書くという授業が必要であると考えました。この3つのポイントが授業改善策としてあげられます。中学校におきましては、一般的に授業内容として教師からの説明が多い傾向がみられるのですが、真鶴中学校では話し合う時間が充実しており、生徒もそれにより学習が深まっていると実感しているという結果が出ました。ただ、目当てやまとめについて、明確に位置づけられていないという課題がありますので、その部分は明らかにしていくべきだと考えています。しかし実験等の回数が多く、子ども達が実際に具体物に触れながら学習し、それに基づき話し合うといった体験と学びの繋ぎは十分に行えているのではないかと、まとめを行いました。

続きまして、それらの分析から、学校と家庭で協力して取り組みを行う部分についてご説明いたします。5ページをご覧ください。子ども達の学ぶ力を育てるために学校と家庭が協力して取り組みたいことと題しまして、四つの項目ごとに分けました。一つ目、「心身ともに健康的な生活習慣を身に付ける。」という部分です。今年度特に重要視していますのが、二つ目です。今年度配付しました、「携帯・スマートフォン・ゲーム機等の決まり」を使って、携帯電話・スマートフォン・ゲームの使い方や使う時間などのルール、インターネットのフィルタリング措置について、各家庭で相談していただくようお願いする投げかけを行っていきたいと思います。先ほどもありました、自尊感情、自己肯定感については、三つ目で触れています。結果よりも子ども達が努力している過程を大いに褒めましょうという事です。子どもはただ褒められれば嬉しいのではなく、褒めてほしいポイントがあります。そういった部分を、教師、親、地域の大人から認められれば、子ども達のやる気も高まっていくのではないかと考えています。四つ目の規範意識の部分です。子ども達が気分よく挨拶できるように、大人が率先して挨拶をしましょうという事で、あいさつに関する項目です。子どもの挨拶活動等を思い浮かべると思います。子どもの方から挨拶させるべきだと思える方もいらっしゃると思いますが、挨拶をしてほしいなら、大人たちから挨拶をし、挨拶が返ってくるという部分を大切にしながら、挨拶自体を子ども達に定着させていきたいと思いますという投げかけになります。最後に家庭学習を習慣づけるという事です。両親や先生と相談しながら、自分で勉強する時間、内容を決めます。特に自分で勉強する時間、内容を決めますが、子どもにまかせっきりにすることはないようにお願いします。両親や先生と相談したうえで、自分の向上のためには何が必要なかを考えることが重要です。今年度真鶴町の特徴としまして、家庭学習では、小学6年生ですが、予習は良くしているが、復習を疎かにする傾向があるという事が分かりました。先日神奈川県の方から同じような傾向を伺いました。学力調査の結果が良い学校は復習が中心であるということで、予習も大切ですが、復習という部分でしっかり取り組んでいくことが学力向上に必要だと思います。それについては、先生や家庭で学習のポイントを与えることが大切であり、その部分を家庭に伝えていきたいと考えております。

続きまして、小中学校の今回学力調査を行いました教科別に、各学校に作成をお願いし、方針と具体策をまとめたものです。これについては教員だけでなく、保護者に対してもお伝えすることで、学校の方針について周知していきたいと考えております。国語部分の具体策は、話す・聞くの課題に対し、人の話をしっかり聞くこと、また聞いたことを含めて自分の意見を述べる場を設定することによる指導です。書くことに関しては、自分の考えを根拠も含めて書く場を設定することです。更に小学校から今回の売りとされているのが、音読活動の推奨です。子ども達が文字を認識し、意欲を高めていくことに音読は非常

に効果的であり、そこに力をいれていきたいと考えているようです。また、漢字テスト等に関しましては、漢字テストの方法を工夫し意欲的に学ぶ環境をつくることで課題解決を図ります。こちらは昨年度も真鶴漢字チャレンジという事で問題を作成しました。結果としては良好でしたが、全国学力学習状況調査の中では結果に結びつかなかった部分があります。その課題の解決には、漢字テストのための漢字学習ではなく、日常的に漢字を使用することが必要だと考えています。学習した漢字を文章の中で積極的に活用するように、先生から働き掛けていくことを対策の中心に添えています。

算数についてです。算数ステップの実施方法の改善として、量から質・時間への転換を図ります。全員に問題を数多くこなすのではなく、得意な子は数多く問題をこなし、苦手な子には限られた問題を確実に回答できる力をつけ、正解に導き、自信を付させていくことを中心に考えています。

理科の指導です。先ほどの課題にもありました、小学校の実験についてです。対策として、児童全員に実験器具の使用に慣れ親しませることを考えています。これまでは先生が実験をし、それを見せる場合や、生徒の代表が実験をするという形でしたが、1人1人が手に取って行えるようにしていきます。

中学校の国語です。主に言葉や漢字の事項の部分です。具体策は、黒板に文を書く機会を利用して、文脈の中で漢字を使用し、日常的な漢字使用を広げるものです。また、文章を推敲することで漢字の使い方の学習とします。

数学分野です。数学的な思考力、表現力の育成のため、数学的活動の充実を図ります。具体的な案としては、具体物を用いて、数学的なイメージを持ちやすくします。理科分野でもありましたように、体験的学習を重視するという事で、数学でも体験を学習に繋げる取組みをします。数学分野でのこのような取組みは小学校でも行われていますが、中学校でさらに高めていくという事です。生徒自らが解決したい、深めたいと思うよう課題作りという事で、受け身で学ぶのではなく、自ら学ぶ姿勢を作りたいと教員は考えています。

理科分野です。基礎的基本的技能の習得ということで、学習活動において、日常で体験したことや話題になっていることを取り上げ、それらと学習内容との関連を図ることから、生徒1人1人の学習への関心を高めていく取組みをします。理科につきましても、知識をただ植えつけるのではなく、子どもたち1人1人が意欲的に学習をする環境を作ります。また科学的な思考力、表現力の育成としましては、観察や実験の機会を増やし、日常での体験と結びつける取組みを行います。また、自分の考えを伝えあう場を設定し、分かりやすく表現するための工夫について考える場面を多く作ることで、子ども達自身が学び合う場を大切にします。そういった授業を中学校でもさらに高めていきたいと思っています。

最後に今年度の重点的取組みをご説明します。こちらは担当だけではなく、部になって相談し、作ったものです。小学校の国語は、漢字使用の日常化に取

り組みます。算数分野では子ども達の計算力を高めます。理科分野では子ども1人1人が確実に実験に取り組む事を基本とし、実験器具の正しく、安全な使い方を指導します。以上の部分を重点的取り組みとしてあげています。

中学校です。数学科では、学習課題の設定と質の高い学び合いの二つを、数学科も含め全教科へ広げていくことに取り組みます。理科では体験と学習の関連付け、学習意欲の向上へ向けて取り組みます。こちらも全教科へ広めていきます。国語科からは漢字使用の日常化と、文のつながりを読み取らせることに取り組みを行い、国語課を中心に他教科へと広めます。

現在先生方を中心に、学校ごとに具体的な取り組みを考え行なっております。結果等は来年度の報告で吸い上げ、定例会でご報告できればと考えています。以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

委員長 ご説明頂きましたが、分析結果と今後の方向性に分けてご意見いただきたい
と思います。結果分析の部分でご質問ございますか。

委員 3年生は1クラスですか。

副課長 2クラスです。

委員 先生が最初におっしゃっていたように、わからなかった子どもの人数が全国
平均よりも少なくても、パーセンテージにすると数字が大きくなってしまっ
ていることは考えられますよね。

副課長 数値的な部分としては、分母数がとても小さいですので、1人が抱えるパー
センテージが大きいですし、大いに考えられます。40人に満たないような学級
ですので、1人が2.5%ほどになります。それを考慮して、数値的な部分で課題
を捉えるのではなく、本当に課題だと思われる部分のみを残すような形で投げ
かける内容の選択を行っています。

委員 中学校のまなづるタイムにあたるものは小学校には無いのですか。

副課長 朝読書の時間は設定されています。

委員 国語の課題で漢字の書きがありますが、それは解決しやすいのではないで
しょうか。単語をひたすら書くのではなく、文章になっているものの中から漢字
を覚えれば、漢字の意味など全体的に学べし、努力すれば何とかなるもので
すので、あまり心配はいらないと思います。

- 委 員 子 ども 達 は 漢 字 に 対 し て 苦 手 意 識 が と て も 強 い で す よ ね。
- 委 員 そ れ は 象 形 文 字 か ら 教 え る な ど、子 ども が 興 味 を 持 ち や す い 教 え 方 が あ る と 思 い ま す。例 え ば、美 術 の 時 間 と し て 絵 を 描 き、漢 字 の 成 り 立 ち を 教 え る 等 で 興 味 を 集 中 さ せ て 教 え る こ と な ど で す。単 元 を 超 え て 学 習 す る こ と は、子 ども の 興 味 を 引 く の で、総 合 的 に 学 習 へ の 関 心 を 高 め ら れ る と 思 い ま す。
- 委 員 長 低 学 年 の 子 供 た ち は 習 っ た 漢 字 に 対 し て 強 い 関 心 が あ り ま す よ ね。低 学 年 で す と 習 っ た 漢 字 を 授 業 中 に 板 書 す る 機 会 が あ り ま す し、時 間 を か け て 教 え ま す の で、身 に 付 く の も 早 い と 思 い ま す が、学 年 が 上 が る に つ れ て 質 よ り 量 の 学 習 に な っ て い る と 思 い ま す。単 体 で 漢 字 の み を 書 く よ り も、文 章 と し て 漢 字 を 書 く こ と や、自 分 の 考 え を ノ ー ト に ま と め る こ と な ど が 増 え れ ば 改 善 す る と 思 い ま す。ま っ た く 勉 強 を し な い で 進 学 し て し ま う と 漢 字 の 力 が 身 に 付 か な い ま ま 大 き く な っ て し ま う こ と も 考 え ら れ ま す。応 急 処 置 と し て 対 処 す る の で は な く、日 常 の 積 み 上 げ と し て 取 り 組 ん で も ら え れ ば と 思 い ま す。
- 委 員 音 読 の 活 動 で も 漢 字 を 学 べ ま す し、音 読 活 動 は 効 果 的 で す ね。授 業 時 間 数 は 足 り る の で す か。土 曜 日 の 開 校 も 検 討 し て み て は い か が で し ょ う か。
- 教 育 長 こ の 場 で 検 討 す る と 議 題 か ら 外 れ ま す の で、今 後 検 討 し て い き ま す。
- 委 員 長 状 況 の ま と め 方 は、課 題 が あ る ケ ー ス な ど は 良 く わ か る の で す が、課 題 の 基 準 に よ っ て は 全 て が 課 題 に な っ て し ま い ま す。以 前 と 比 較 し て 良 く な っ て い る 部 分 も あ る と 思 い ま す の で、そ の 部 分 も 同 時 に 見 ら れ る よ う に は で き ま せ ん か。
- 副 課 長 例 年 と 比 較 し て 数 値 の 伸 び を 見 ら れ る よ う に す る こ と は 可 能 で す。子 ども 達 の 成 長 だ と 思 い ま す の で、伝 え ら れ る よ う に し ま す。
- 委 員 テ レ ビ ゲ ー ム や ス マ ー ト フ ォ ン を 使 っ て い る 時 間 の 割 合 が、真 鶴 は 県 下 で も 多 か っ た と 思 い ま す。そ の よ う な 部 分 が 家 庭 学 習 時 間 を 圧 迫 し て い る よ う に も 感 じ ま す。そ の 辺 り を 解 決 で き れ ば 予 習 復 習 の 時 間 も 増 え る と 思 い ま す。と て も 難 し い 問 題 だ と 思 い ま す が、取 り 組 む こ と は 重 要 だ と 思 い ま す。
- 教 育 長 こ の 方 向 性 は 検 証 委 員 会 の 先 生 方 の も の で す。こ の 内 容 を 学 校 の 先 生 方 や、保 護 者 の 方、地 域 の 方 に 伝 え る こ と を 考 え る と、も っ と イ ン パ ク ト が あ っ た 方 が 良 い と 思 い ま す。た と え ば 学 校 用 の 資 料 の 1 ペ ー ジ で は、何 が 大 切 か わ か り に く い 配 置 に な っ て い る と 思 い ま す。副 課 長 の 説 明 は と て も 分 か り や す か っ た の で、そ れ を 書 面 に で き れ ば い い で す ね。ど れ も 重 要 な の は 分 か り ま す が、今

のままでは連続的な課題や、学年特有の課題が保護者の方に伝わりにくいと思います。とてもいい内容で作成できているので、伝え方にも工夫していただきたいです。それから中学校3年生の資料には、授業でわからなかったことは教師や友達に尋ねる生徒が多くいるとありますが、小学校でも同じ質問をしていますか。

副 課 長 ありました。

教 育 長 対策の家庭学習の部分には家庭学習でわからないことをそのままにしないようにしようという記載もありますよね。中学校ではできているなら小学校でも取り組むべきだと思います。ポイントとしてまとめるよりも、資料の始めに大きくまとめれば分かりやすいと思います。読書の部分では、友達100冊つくろうなどの取組みを地道に行っているのにもかかわらず、子ども達のアンケートでは今回のような結果でした。このズレはどのようにお考えですか。

副 課 長 端的に言うとも効果薄だという事ですね。

教 育 長 これから思い切って他の方法にするのか、それとも効果が見込めるように改善し続けるのかだと思います。読書に関して、小学校はとても熱心に取り組んでおりますが、結果を踏まえて振り返りを行う必要があるように感じます。

委 員 長 分析の部文では以上です。今後の方向性も多少変化があると思いますので、そこを含めた部分でいかがですか。

教 育 長 先ほどの分かりやすさにも通じる部分なのですが、副課長の説明で、授業改善の説明もとてもわかりやすかったので、こちらも先ほどと同じように伝わりやすさの工夫をお願いします。2月に振り返りを行うという事ですので、是非それぞれの具体策の進捗などのチェックをお願いしたいと思います。また、工夫という言葉でまとめるのではなく、具体策を提示してもらいたいです。それぞれの学年でどんな工夫をしたのか知りたいので、2月の検討委員会の際に合わせてご報告いただけますか。それから最後に、最後の小中学校の特に重点的な取り組みの場面ですが、副課長の説明では小中の一貫性が伝わったのですが、資料の方だけでは関連性が伝わらないかなと思います。検討委員会ではどのようにお考えですか。

副 課 長 重点的取り組みに入る前に、小中学校の先生方が各教科別に分かれ情報共有し、各校の課題を話し合い、共通の認識を作った上で、学校に戻り重点的政策を作っていただきました。小学校は具体的な活動に焦点を当てており、中学校

はどちらかという授業づくりに焦点を当てています。これは結果に大きく影響されており、小学校では改善策を作り、中学校では今できていることをより良くするために授業の質を高める案を作っています。関連性という部分ではどちらにも同じものを求めたいですが、今年度の結果からは分かれた対策の方が良いと感じました。その経緯からまとめるようなことをしませんでした。

教 育 長 説明から経緯が分かりました。そのような意図でしたら納得できます。小学校の重点的な取り組みですが、小学校1年生と6年生はかなり差があると思います。1年生から6年生まで徹底してこの形で取り組むのではなく、発達段階を踏まえた課題解決のための取り組みも必要ではないかと思います。小学校の児童指導も当てはまりますが、1年生と6年生に同じことをすると、どちらかに無理が出ると思います。小学校で一つの取り組みではなく、低・中・高に分ける等、考慮したものも出来ると思うので、検討していただきたいと思います。

委 員 長 他にございますか。

委 員 重点的取組みの部分ですが、小学校の国語科ではとても具体的な内容なのに対し、算数科では取組みになっているように感じます。算数では作図や図形問題に課題があったようですので、内容を具体的に分かるようにした方がいいと思います。

委 員 長 2月の検証をどう生かすかが重要だと思います。年度末に学校でまとめるか、新年度に新しい取組みとして入れていくかだと思います。御題目になっては勿体ないので、取組みのタイミングとして2月の検証はいい時期だと思います。4月から検証結果をしっかり組み込んで新学期を迎えられればいいですね。

教 育 長 先ほどの委員の発言にも繋がりますが、小数の計算に関しても文言を入れてはいかがですか。小数の計算をするまでに習う内容の復習にもなりますし、小数を一つのテーマにし、具体的な指導内容を組み立てられればいいのかと思います。作図にもつながる考え方ですので、実際に授業されている先生方のご意見等も取り入れて検討していただきたいです。

副 課 長 まず先ほど教育長のご意見にありました、発達度別の具体的な取組みを小学校と詰めて作成したいと思います。

教 育 長 中学校の教科だけに留まらず、他の教科にも繋げて取り組もうという取組みは非常に良いと思います。

- 委員長 他にございますか。
- 委員 家庭向けの部分で、スマートフォンの決まりで追跡アンケートのお話がありましたよね。その辺りが学力向上に関連していることや、他の部分での関連などを分かりやすいようにした方がいいと思います。アンケートの意味をこちらは分かっていますが、保護者に訴えかけていくことが重要だと思います。
- 教育長 スマートフォンのアンケートを出したときや回収した時、スマートフォンの使い方が学力や生活に影響を与えている事を伝えてきました。今後もアンケートを取る際には、学習習慣や読書週間との関連も伝えていくようにします。
- 委員 家庭で理解してもらうのも大切ですが、まずは本人だと思います。本人が影響に気付いてくれればいいですね。
- 委員長 家庭配付用の資料をともしっかり作っていただきましたが、家庭で見てもらえるかも一つの課題だと思います。教育長がおっしゃっていたように、伝え方の工夫があればいいですね。
- 委員 子どもが配付されたプリントを無くすことや、親に見せないこともありますので、ホームページ掲載もあればいいですね。
- 副課長 学校ではなく、町のホームページには記載してあります。その後案内も添えようと思います。
- 教育長 今回の向上策の内容とは別に、子ども達を取り巻く部分として、スマートフォンや土曜授業などのお話がありましたので、こちらは別に課題として持ち帰り検討します。
- 委員長 一人一人の先生方が、原因や対応について考えることが必要かなと思います。
- 委員 流れとして考えると、中学校で全国平均より上であった学年も、小学校の時には全国平均より少し下だった訳ですから、やり方としては間違っていないと取れますね。
- 委員長 少しずつ積み上げている部分ではプラスになっていると思います。授業態度も関係していると思います。発達段階に応じて課題が出てくることもありますね。よろしいでしょうか。それでは報告事項についてお願いします。

報告事項

施設の月別利用状況、事業計画等を説明

委員長

質問等ございますでしょうか。それでは以上をもちまして、10月定例会を終了させていただきます。

次回定例会

平成27年11月24日(火)

協議会 13:30～

町民センター第1会議室

定例会 14:00～

町民センター第2会議室